香川大学 広報誌

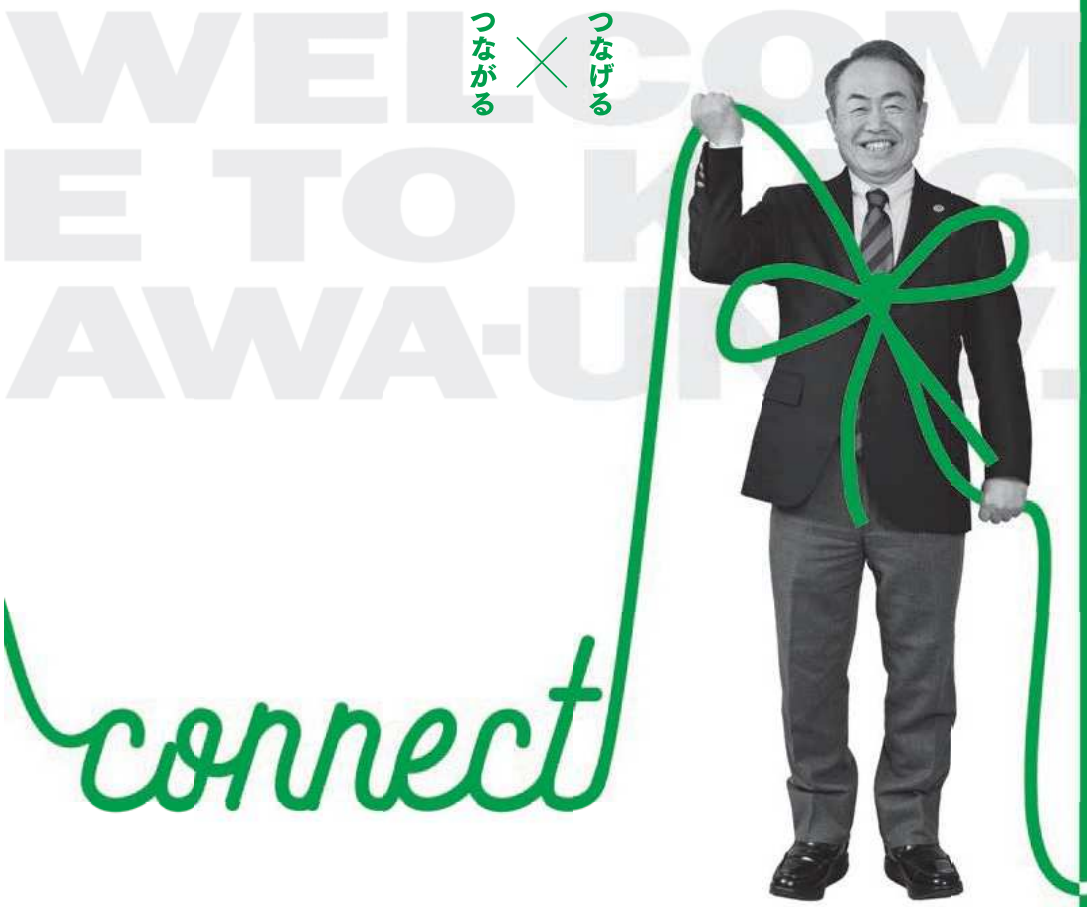
かがアド

KAGAWA UNIVERSITY AD Vol.031 2019 WINTER

31

THE 31th. ISSUE

つなげる × つながる



かがアド

KAGAWA UNIVERSITY AD Vol.031 2019 WINTER

香川大学広報室 〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 087-832-1027 https://www.kagawa-u.ac.jp/

WELCOME TO KAGAWA-UNIV.

香川大学

特集 01

スペシャルインタビュー

― 人とつながることで世界は広がる ―

special interview

香川大学 学長

筧 善行 × 植村 友香子

香川大学インターナショナルオフィス 特命講師

筧 善行　Kakehi Yoshiyuki
京都府京都市出身。
京都大学大学院医学研究科博士課程修了(1989)
香川大学医学部附属病院副病院長、香川大学理事・副学長を経て、2017年10月より現職。専門は泌尿器科学。

植村 友香子　Uemura Yukako
香川県高松市出身。
お茶の水女子大学大学院修士課程日本文学専攻修了(1991)・日本言語文化専攻修了(1993)
ヘルシンキ大学日本語講師、岡山大学講師を経て、2017年より現職。

問題意識の共有があれば国境を越えつながりあえる

研究の世界では、異文化コミュニケーションが当たり前。同じジレンマを抱えた者同士なら、たとえ言葉は拙くても対等に議論し合うことができる。

言語から見えてくる民族アイデンティティ

筧　ゆっくりお話しするのは初めてですね。2017年5月に香川大学に来てくださって、私が学長になったのが10月でした。フィンランドには行ったことがないのですが、先生は長くお住まいだったとか。

植村　2013年に帰国するまで、約20年フィンランドの首都ヘルシンキにいました。私がお茶の水女子大学の大学院に入った頃は、政府が留学生10万人計画を唱えた時代で、色々な大学に日本語教員養成課程が設置されました。国際交流基金には日本語教育の専門家を海外の大学に派遣するという事業があるのですが、先生に勧められて応募したところ採用されたため、国際交流基金と契約を結びヘルシンキへ派遣されたのがきっかけです。4年間ヘルシンキ大学で日本語を教えて、国際交流基金が派遣を終了する際に一度フィンランドを離れました。その後、ヘルシンキ大学が独自に日本語講師職を設けることになったため応募したらどうかと教え子に言われて、あらためて応募しました。

筧　つい先日、サンナ・マリンさんという34歳の女性がフィンランドの首相になられましたね。しかも連立与党の党首も全員女性、一人を除いて全員30代だという。非常に画期的ですが、そういうお国柄なんですか？

植村　ヒエラルキー意識が低いのは感じます。相手の立場に忖度して、言わなければならないことを飲み込むカルチャーはあまりないですね。フィンランド人は、一般的なヨーロッパ人のイメージとは少し違います。言語的にも、英語・スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語などはインド＝ヨーロッパ語族なんですが、フィンランド語はフィン＝ウゴル語族という別の系統。ヨーロッパの人たちは、自国の言葉が失われることに心理的な抵抗が強いと感じることがあります。独自の言語を話しているというのは、彼らのアイデンティティの一つになっているのではないでしょうか。

筧　EUの時代になってもそういう気持ちは残っているんだ。

植村　そこがヨーロッパの面白いところだと、行ってみて感じるようになりました。違う個性を持った民族が、さまざまなあつれきや紛争を抱えながら、何とか一緒にやっていこう、新しい価値を生み出していこうとしてるんです。

薄まる男女のボーダーライン 学生は女子の方が元気

植村　ヨーロッパでは、いわゆる研究を行う大学と、研究成果を応用してビジネスに活かす大学が異なります。ヘルシンキ大学はオーソドックスな研究寄りの大学でした。

筧　国策としてそういう大学が必要だと考えているんですね。マリン首相も、そのコンセプトを変えないで続けられるのでしょうか。

植村　彼女自身もいわゆるエリート階級の人ではないですし、お母さまのパートナーが女性という性的マイノリティの家庭に育ったんですよ。それがもとになって、人はみんな平等でなくてはいけない、いろんな考え方・生き方が許容されるべきだという価値観が生まれたそうです。

筧　性的マイノリティといえば、先生の母校お茶の水女子大学がLGBTの入学を認める大決断をしましたね。今は男女というボーダーライン自体がなくなりつつあります。この決断には、大学の方からボーダーラインを消しに行ったという、とても大きな意味があると思います。

植村　生物学的ではなく社会的な性差、ジェンダーは厳然としてありますよね。私が女子大でよかったなと思うのは、男子に忖度し特別扱いする文化がなかったことです。全部女子だけでやるしかないから、求められることが男子と同じレベルでした。女子大出身者は、本当の意味での男女差別をわかっていないままかもしれないですね。でも私自身が女子大で教育を受けられたのはよかったと思います。

筧　香川大学の旧工学部は逆に女子の比率が非常に少なく、それが独特の学部の雰囲気をつくってしまっていました。新しい創造工学部では女子も興味を持てるようコースをつくって、雰囲気が変わったと教員も言っています。学内で開催するチャレンジ系のコンテストも、今は圧倒的に女子の方がトライしてきますよ。日本の未来図を見ているような…もうちょっと男の子頑張れよとも思うんだけど。執行部も、教育研究評議会という大学の最高議決機関に、人文社会科学系と自然生命科学系から一人ずつ女性が参加してくださる予定です。忖度しがちなこともバシバシ言えるカルチャーにしてしまえと努力しているつもりです。

国内にもある異文化交流が相互の刺激に

筧　生まれは香川だと伺いましたが、ヘルシンキとはあまりにも違いますよね。

植村　フィンランドってヨーロッパの中では周縁部に属するところなんです。日本くらいの国土があり、東側はロシアと国境線を接している国で、約500万の人たちが、世界のさまざまなランキングで上位に入ることをやっている。それを経験したので、香川が小さくて中心から外れているのは必ずしもマイナスではないし、「できない」理由にはならないことを実感しています。心理的には「田舎やし…」みたいなのが私の中にもずっとありましたが、それは違うなって。

筧　大変重要な観点です。外の世界を見たから思えることでもあるでしょうね。香川県で育った若者が県内大学に進学する割合は20％以下で、四国でもかなり少ない状況です。でも、それは悪い面ばかりではなくて、外の世界を見る良さもあると思うんです。本学に入ってきてくれる地元の学生たちにとっては、首都圏の学生との対流促進事業が意味を持つと思う。全く異なる環境で育った人たちとふれあうのはお互いに良い経験になるのではないでしょうか。

植村　異文化というとすぐ外国を考えますけど、実は日本の中にも、世代とか育った環境とか、大きな異文化があるんですよね。首都圏だけを見て、それが日本だと首都圏の学生に思ってほしくない。日本はもっと多様性に富んでいます。四国の場合は四国霊場もあり、いわゆる近代的な科学だけではないものを抱えて生きてきた風土がありますから。

日本の初等教育は日本の強みでもある

筧　最近、考えていると鬱々としてくるのが、地球環境の悪化です。小学生の頃に感じていた日差しとは明らかに違う。紫外線も強くなっているし、特にこの数年は世界中で大洪水が起こって、日本でも甚大な災害が増えてきました。若者の間では、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんの活動がムーブメントになっていますね。環境問題にせよ女性の進出にせよ、これから進むべき社会の最先端を切っているのはヨーロッパなのでしょう。

植村　高等教育では日本のリーダーにとどまらずグローバルな視点を持つ若者を育てていくべきですが、国がそういう状況の中、それだけの気概を持つことができるのかが、われわれに突き付けられている課題ですね。

筧　中国では、英語教育、人工知能教育、プログラミング教育などははるかに進んでいるようです。日本も危機感にかられて小学校から英語やプログラミングを教えると言い出してるけど、中国の教育熱心なお母さんたちが視察に来て一番驚くのは、日本の初等教育なんですよ。非常に統制がとれていて、掃除や給食の時間は自分たちで動く。お寺に行けばきちんと靴をそろえて上がるし、プレゼント交換では手作りの品を渡すから、中国の子は感激して泣いちゃったりしてね。そういう日本の初等教育は明治以降、ひょっとしたら江戸からずっとやっていたことで、それは多分日本の強みなんです。DNAとして受け継がれているしかない。だから普通に外国に行くし、外国の研究者を呼んで講義をしてもらったりします。私の同僚は中国・韓国・トルコ人で、上司の日本研究者はエストニア人でした。フィンランド人でも旦那さんがエジプト人だとか、子どもの時ケニアで育ったとか、複数の言語を操って仕事をするのが当たり前の環境でした。それがグローバルであり、単に英語が使えるということとは本質的に全く異なります。

大学は研究を行い、その成果をもとに教育も行うところで、研究は何語であろうと基本的に世界に開かれていますから、大学そのものが非常にグローバルなコミュニティであると考えています。

筧　医学における共同研究も、世界各地で同じジレンマ、クリニカルクエスチョンと僕らは言いますが、それを共有しているから行えるんですよ。僕の研究テーマは「前立腺がんの過剰治療」です。ある診断方法が普及して早期発見が増えたのですが、過剰に治療される人が世界中に出てきました。当時の日本は医療報酬制度が出来高なので、僕のように「見つかっても治療しなくてもいい」なんていう学者は、当初ずいぶん嫌な顔をされました。でもヨーロッパ、特にオランダの先生方は反応が早かった。イギリスやカナダ、アメリカの先生が加わって、あっという間にグローバルな研究者集団ができたんです。たどたどしい英語でも、臨床的疑問が共有されているので、議論も研究も成立するわけです。

香川大学の場合、インターナショナルオフィス長の徳田先生や植村先生のご発案でイングリッシュ・カフェの名称が「グローバル・カフェ」に変わったことは、象徴的です。共通言語が英語なのは変わらないでしょうが、名称にはそれを超えた理念的な意味があるのでは。

植村　その通りです。世界はそもそも昔から多文化共生の場でした。「英語ができればちょっとおしゃれで、国際的で、それがグローバル」とは全然違うということを、学生には若いうちに感じてほしいですね。

筧　今の大学生がヨーロッパの若者たちとあまりにも違うことにも、僕は危機感を持っています。初等教育に良い面があると言いましたが、実は決定的に弱い面もあって、日本の大学生はあまりにも社会に目を向けていない。社会に対して関心も興味もないことは、香港を見ればわかります。

日本では投票権が18歳に引き下げられましたが、大学生の投票率が一番低い。本学では法学部生が頑張って期日前投票の学内投票所をつくってくれていますが、学生はほとんど行ってないんじゃないかな。法学部の先生とも相談して、あそこに多くの学生が投票に来るようにできれば…と考えているんです。

植村　国レベルの思考停止状態は危険ですよね。先ほどお話したマリン首相へのインタビュー動画の中で女の子が「どうして選挙や投票は大事なんですか」と訊いて、マリン首相は「投票は権利だし、投票によって自分たちの考えを社会に反映させることができるのは非常に大切」と答えていました。我々の国は民主主義の国で、投票は一人一人が持っている大切な力なのだということを、今の日本は子どもに言えないのかもしれない。そんな中で地方の小さい場所であること、中心にいないことを、むしろ強みに変えていく戦略と発想が必要ではないでしょうか。

周縁部に位置することは必ずしもマイナスではない

ヨーロッパの中心からは外れたフィンランドが、さまざまな分野で世界をリードしている。四国・香川も、日本の周縁だからといって「できない」理由にはならないんじゃないか。

ているしっかりした初等教育を、焦って捨てることはないと思います。

植村　マリン首相が小学生の女の子からインタビューを受けている動画で、一番感謝してることは？」という質問に対してすぐに「フィンランドに生まれたこと」と答えていて。フィンランドに生まれたおかげで福祉社会に育ち、いい教育を受けることができた、という言葉に子どもたちも深くうなずいていたんです。フィンランドのいいところといえば、自然が豊かなこと。何時間も車に乗って行く山ではなく、家のすぐ裏に森があったりする。そういう日常の中で培われる感性が、世界に誇る良質な教育の基礎になっています。プログラミングも英語も大事ですけど、それはしっかり築かれた感性があれば後からでもついてくるもの。裏打ちがない教育が果たして何をもたらすのか、すごく考えますね。

筧　香川大学に新しくできた総合教育棟の向こうに峰山が見えていますが、あれは大学にとって大きな資産ですよ。ここで峰山に抱かれて学ぶ※DRI教育と、排気ガスだらけのところで考えるDRI教育は当然違ってくる。グローバル教育やデータサイエンス教育はどこの大学にも求められていますが、これからの香川大学はあえてヒューマニティー中心でいきたい。それが結局は日本を助けるんじゃないかと。

植村　私は小学校から国立大学まで、一貫して日本の公教育で育ったんです。ヘルシンキ大学のような多国籍な場所へ入って、もちろん知らないことはたくさんありますが、自分が見劣りするとか、気後れするとか感じたことはまったくないんですよ。少なくとも私が育った時代の日本の公教育とは、そういうものであったと思います。ビジネスと切り離せる高等教育機関としての国立大学は、中等・初等教育を牽引していく灯台のような存在であってほしいと思っています。

筧　日本の伝統的な初等教育によるボトムアップの部分もありそうですよ。日本の大学は空洞化しているという厳しい批判はありますが、日本の初等・中等教育が優れていて、周囲の優れた人たちの影響を知らず知らずのうちに受けたからこそ、われわれは今全く気後れせずにやれているわけですから。

大学生たちはもっと社会に関心を

植村　私がヘルシンキ大学で所属していた「アジア・アフリカ言語学科」は当初、非ヨーロッパの言語学科としてひとくくりにされていました。それが途中で改組されて「世界文化学科」になりました。フィンランドでアジアやアフリカ、中東などを研究する人はあまりいません。そうなるとどの先生も、自分の研究コミュニティは外国に求め

※「DRI教育」とは、新たな価値創造のための学士課程教育です。DRIとは、次の3つの言葉の頭文字です。
Design thinking:イノベーションを創出する「デザイン思考」
Risk managementレジリエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」
Informaics:専門分野を超えた「インフォマティクス」

高木 由美子 Takagi Yumiko
香川大学教育学部教授
香川県丸亀市出身。
岡山大学大学院教育学研究科修士課程修了（1990）。博士（理学）。専門は有機化学。
2011年より現職。2015年までインターナショナルオフィス教授を併任。2016年より香川大学教育学部附属坂出中学校長を併任。

つなげる × つながる
interview 1

世界と地域をつなぐ グローカルな人材を育てる

小学校の英語必須化、瀬戸内地域の活性化など、
教員に求められる資質は高くなっています。
限界を作らず、何事にも果敢にチャレンジしてください。

将来教員になる学生に早い段階から国際的な素養を高めてもらうために、教育学部ではタイのチェンマイ大学、アメリカのコロラド州立大学、チェコの南ボヘミア大学、台湾の嘉義大学に学生を派遣するプログラムを実施しています。私は教育学部の国際交流委員として、2002年にアメリカのコロラド州立大学と学術国際交流協定を結ぶ仕事に携わりました。学生の交流が始まったのは2008年からです。これまでに85人のアメリカ人学生を受け入れ、本学の学生約50人を送り出しています。コロラド州立大学からの留学生は、日本語と日本文化を学びます。香川大学生はコロラド州立大学で開講されている日本語の授業のティーチングアシスタント活動をしたり、アメリカのプレスクールや小中高等学校を見学し、教育制度などを学んでいます。多くの学生に参加してもらいたいと考えていますが、教育学部の学生は授業数が多く、2年から実習が入る関係で、長期留学するには、大学の仕組みを変える必要があるのかもしれません。

私が国際交流委員に着任した当時の教育学部長が「五大陸の大学と国際交流協定を結ぼう」という目標を掲げていました。今では、中国、韓国、タイ、ブルネイ、スペイン、チェコなど数多くの大学と協定を締結しています。最近では台湾の嘉義大学で行われた国際会議に、教員6人と学生7人で参加しました。アフリカについては、南アフリカで勤務している卒業生もいますので、機会があれば協定を結びたいですね。

近年、香川に訪れる外国人観光客も増えています。小学校でも外国人の子どもを受け入れており、地域の国際化が進んでいます。本学でも外国人研究者や香川県の企業誘致を検討している海外行政担当者とともに県内企業を訪問し、香川や瀬戸内地域の魅力を再発見し、地域に根ざした広い視野を持つ教員・社会人を育てるプログラムを立ち上げました。

学生たちには日頃から「限界を作らず、チャレンジしてほしい」と伝えています。自分の知っている世界が全てではありません。いろいろな交流や体験を通して、世界が広がると思います。あとはポジティブに頑張ってもらいたいですね。これからは、地球規模で物事を考え、地域目線で行動できる「グローカル」な人材が求められています。現在附属坂出中学校の校長も兼任していますが、二つの附属中学校でも、高松は国際交流、坂出は地域連携の授業を取り入れています。本学には、「海外で勉強したい」「地域に貢献したい」という学生を支援するプログラムがたくさんあります。

グローバル・カフェ

Next Innovation

香川大学発　研究シーズ活用レポート

Kagawa Univ. Case Study No. 07

板谷 和彦 Itaya Kazuhiko
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授
愛知県豊田市出身。
東京大学理学系大学院相関理化学専攻修士課程修了(1986)東京大学総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程修了(2010)。理学修士・博士(工学)・博士(学術)。専門は経営学。

「地域から世界へ」
香川はポテンシャルを秘めています

企業や自治体などの「組織」には、必ず規範やルールが存在します。目標を達成する指針となる一方、その枠の中で縛られることもあります。地域マネジメント研究科の板谷和彦教授は、組織全体の行動を経営学の観点からとらえた組織と管理のあり方を教えています。

板谷教授は、異色の経歴の持ち主です。大学時代の専門は理学で、卒業後大手電機メーカーに就職し、研究者として25年間技術開発に従事していましたが、一から経営学を学び直し、工学だけでなく経営学に関する博士号も取得しています。

電機メーカーの研究者時代、アメリカのカリフォルニア大学サンタバーバラ校(UCSB)に派遣されて一番驚いたのは、大学教授がたくさんのベンチャーを立ち上げ、新しいものを生み出そうとしていることでした。その当時、板谷教授は「先生なんだから無理して起業しなくても」と思っていました。しかし、大学教授がベンチャーを作り、そこで研究室の優秀な学生や卒業生が新たなものを生み出していく姿を見たことがきっかけで、彼らがどのような意識で創造しているのかが気になり、勤めながら大学院に再入学して勉強することとなりました。

経営学者としてUCSBを再訪問した際、「なぜベンチャーを作るのか」を質問したところ、彼らは質問の意味が理解できませんでした。「なぜ作らないのか」と逆に質問されるほど彼らにとっては当たり前のことなのです。日本は学歴社会と言われていますが、アメリカの大学院進学率は日本の4倍以上と高く、高度な専門性が重視されています。アメリカの学生にとって博士号(Ph.D)を取得するのがステータスで、しかも出身大学と違う大学院に進むとさらに評価が高くなります。就職についても、優秀な学生が大手企業に進む日本とは違い、アメリカではベンチャーに進みます。そうした風土が新たなイノベーションを生み出しているのかもしれません。

地域マネジメント研究科は、地域に貢献できるリーダーを養成する修士課程です。板谷教授は経営管理論と定性的研究方法論などを教えています。学生のうち9割は社会人で出身もさまざま。学生の中には企業の社長もいます。「地方には面白い企業がたくさんあり、突き抜けた発想をする人もたくさんいて面白い。卒業生の中には全国の名高い学会に論文投稿した人もいます」と香川県が持つポテンシャルの高さを実感しています。実際に県内企業で、独自の検査技術を持った会社のソフトウェアが世界的なメーカーの工場に導入された事例もあります。

「製品だけではなく、その根幹をなす理論や知恵を地方の企業が持っていることもあります。それを見つけて、マッチングするのは私の役目」と板谷教授。「今の私は技術そのものの研究ではなく、方法論として創造性やセレンディピティ(偶然に何かを見つけること)をどういう働きかけをすれば育まれるかを研究しています」と話します。アメリカオレゴン州ポートランドで開催される技術経営の最も大きな国際会議であるPICMETに、前職の東京農工大学の学生とともに成果を発表し、ベストプロフェッサー賞に輝きました。これまでの受賞者の所属を見ると、マサチューセッツ工科大学やオックスフォード大学など世界的に有名な大学ばかり。日本の地方大学である香川大学の名が世界中に広がり、板谷教授は「痛快でしたね」と笑っていました。

地域マネジメント研究科では、2020年度から「イノベーション」をテーマにした授業を行う予定で、現在準備の真っただ中。アメリカは「大学があるところにベンチャーあり」と言われるほど、次々と新しいものが生まれて、新陳代謝が進んでいます。その点で日本は遅れていますが板谷教授は「組織に存在する規範やルールなどの『縛り』を打ち破り、新たなものを生み出せる風土は都市部より地方に可能性がある」と考えています。

ギターとキーボードが趣味で、カレーの腕前と餃子の焼き方にこだわりを持つ板谷教授。「地域から世界へ」。遠く険しい道のりかもしれませんが、持ち前のバイタリティで少しずつ前進しています。

2017年 PICMETでの授賞式

ワークショップのお知らせ

地方で初開催!

第5回 PICMET Japan Talk meeting

技術経営に関するさまざまな話題を共有し、課題解決や研究・開発に向けて知識を共創していく場です。ぜひご参加ください。

●日時　2020年3月21日(土)　13:00～16:00
●場所　香川大学　又信記念館1階(幸町南キャンパス内　高松市幸町2-1)
●基調講演　丹羽 清氏(東京大学名誉教授)
　テーマ　「地域を有利に活用したイノベーションのヒント」(仮題)
●問い合わせ先　TEL:087-832-1864　E-mail:itaya@gsm.kagawa-uc.ac.jp

〈研究シーズ活用のご相談は〉
香川大学 産学連携・知的財産センター
〒760-8521 香川県高松市幸町 1-1
TEL.087-832-1672(代)
FAX.087-832-1673

本学研究者の研究成果は、
HPより確認できます。
https://www.kagawa-u.ac.jp/ccip/

KADAI COLLABORATION

01 NEXCO西日本と連携協力に関する協定締結

平成29年8月21日(月)、NEXCO西日本四国支社と香川大学は、「国立大学法人香川大学と西日本高速道路株式会社四国支社との防災連携協力に関する協定」を締結しました。

02 JR四国と連携協力に関する協定を締結

平成29年9月11日(月)、四国旅客鉄道株式会社(JR四国)と香川大、徳島大、愛媛大、高知大の4国立大は、四国の地域活性化を目的に、観光振興や人材育成で連携する協定を締結しました。

締結式において、JR四国は「人口減少・少子高齢化などが全国に先駆けて進む「課題先進地域」から、課題に対して学生が中心になって複数の旅行商品を練り、体験型への需要シフトなどを踏まえ、地場産業の再生を行う「課題解決先進地域」を目標にしたい。」と挨拶され、本学からはツアー企画策定手順について説明後、「若い感性、今までにない目線で素晴らしいツアーができると期待している」と今後に向けた期待を述べました。

03 STNetとの連携協力に関する協定を締結

平成30年2月1日(木)、株式会社STNetと香川大学は、地域活性化を目的に、最新ICT技術の研究交流や人材育成で連携する協定を締結しました。

締結式において、STNetは、「今回、創造工学部の新設など新しい取り組みを進めている香川大学と包括連携協定を締結することで、お互いの強みを持ち寄った共同研究などの産学連携を進め、今まで以上に地域の活性化に貢献していきたい。」と挨拶され、本学は、「地元のIT企業でセキュリティに強いSTNetと連携協定を結べることは香川大学にとって重要であり、学生の教育プログラムについても助言いただきたい。」と今後に向けた期待を述べました。

今後も両者は、本協定を通じて、このような最新のICT技術を用いた地域貢献や地域活性化に関する共同研究や、ICT関連セミナーの共催などを実施していく予定です。

04 リコージャパンと地域の発展と活性化に向けて包括連携協定を締結

平成30年2月21日(水)、リコージャパン株式会社と香川大学は、相互の連携・協力を強化し、地域の発展に寄与するために、地域活性化に向けた研究交流、人材交流、人材育成、技術開発交流に関する包括連携協定を締結しました。

現在、香川大学においては、地域の課題や地域活性化のための取り組み・共同研究の実施やICT活用(特にメディア技術)に資する人材育成が求められています。一方、リコージャパンは、リコーグループの国内販売会社として全国各県に支社を設置し、地域密着で事業を展開しています。オフィス領域で培った課題解決力をもとに、産官学金労言の皆様との連携・協力を強化して、地方創生・地域活性化に取り組んでいます。

両者はこれまで、地域におけるICTを活用した新しいビジネスやイノベーション創出に関する取り組みを共同で実施してきました。今後、さらにつながりを強固なものとし、連携して地域産業の発展に寄与するために協定を締結しました。

05 土庄町及び小豆島町と「包括的連携・協力に関する協定」並びに「サテライトオフィスの運営に関する覚書」調印

平成30年10月17日(水)、土庄町及び小豆島町と香川大学との「包括的連携・協力に関する協定書」並びに「サテライトオフィスの運営に関する覚書」調印式を開催いたしました。

継続的に様々な活動を進めていくうえで、これまでは教員や部局単位での連携を中心に活動してきたものを、今後は大学として土庄町及び小豆島町との活動をバックアップすることにより、点であった活動が線となり面となり、より多面的な活動に発展することが期待されます。

06 あいおいニッセイ同和損害保険㈱と連携・協力に関する協定を締結

平成31年3月11日(月)、あいおいニッセイ同和損害保険㈱と香川大学は、相互の連携を通じ、地域の発展に寄与することを目標に、本学の研究活動による専門知識と、あいおいニッセイ同和損害保険㈱が事業展開してきた経営資源を基に、地域活性化に資する研究交流、人材交流、人材育成、技術開発交流などのうち相互の協力が可能な分野において、具体的な協力を有機的に推進していくことを目的として、連携・協力に関する協定を締結しました。

07 JAグループ香川と包括連携協力に関する協定を締結

令和元年6月6日(木)、香川大学とJAグループ香川は、香川県における農業振興並びに関連産業及び地域の発展に寄与していくことで一致し、包括連携協力に関する協定を締結しました。

08 東京農業大学と連携・協力に関する協定締結

令和元年10月17日(木)、東京農業大学と香川大学は、連携・協力に関する協定書締結式を実施し、協定を締結しました。

本協定は、教職員・学生の交流の推進等、教育と研究の両面にわたって広く連携・協力を図り、双方の学術研究の成果を共有すること等により、21世紀における両大学のさらなる発展を目指すとともに、社会にその成果を還元し、我が国の発展に寄与することを目的とするものです。協定締結により、農学の幅広い分野で、特色ある教育研究に実績のある東京農業大学との間で、様々な学生・研究者の交流機会ともに、農業や関連産業の振興等、地域社会との連携が拡大することが期待されます。

09 国土交通省四国運輸局と包括連携に関する協定を締結

令和元年11月14日(木)、国土交通省四国運輸局と香川大学は、包括連携に関する協定書締結式を実施し、協定を締結しました。

本協定の締結により、四国運輸局が持っている運輸・観光に係わる様々なデータや課題などを本学と共有することで、四国地域における運輸・観光領域の利便性や経済振興につなげることが期待されます。すでに本学教員と四国運輸局職員による活動グループを立ち上げ、地域における観光・交通・防災対策の課題の分析・考察に取り組んでおります。このような活動を皮切りに、今後、運輸・観光を軸とする地域創生に係る大型のプロジェクト研究の獲得を目指します。

10 香川と都市圏の大学との連携・協力に関する協定書締結

令和元年12月19日(木)、津田塾大学・芝浦工業大学・香川大学は、シンボルタワー高松において、連携・協力に関する協定書合同締結式及び協定締結記念合同フォーラムを開催しました。

これは、津田塾大学と香川大学、芝浦工業大学と津田塾大学が、包括連携協定の合同締結式を実施したもので、津田塾大学と香川大学との協定では、教職員・学生の交流の推進等、教育と研究の両面にわたって広く連携・協力を図り、双方の学術研究の成果を共有すること等により、21世紀における両大学のさらなる発展を目指すとともに、社会にその成果を還元し、我が国の発展に寄与することを目的とします。

Student introduction

武川芽生　Takekawa Mei（右）
谷本恵太　Tanimoto Keita（中）
石尾友実　Ishio Tomomi（左）
香川大学教育学部社会科研究室　2年

小学生に教える四国遍路　手作り教材でわかりやすく

メリハリをつけて、子どもを引き付ける授業を（武川）

次の世代にも四国遍路に興味を持ってもらいたい（谷本）

子どもの心に残るように、ポイントを絞って伝える（石尾）

世界遺産登録を目指している四国遍路。若い世代にも四国遍路や寺の歴史などに対する興味を持ち理解してもらおうと、香川大学教育学部社会科研究室の2年生17人が高松市一宮町の四国霊場第83番札所・一宮寺で、地元の小学6年生120人に児童向けの授業を行いました。その時の様子や、参加して感じたことを、メンバーの谷本恵太さん、石尾友実さん、武川芽生さんに伺いました。

今回の活動は、県が2018年度から行っている「札所寺院調査普告会」の一環で、2019年度は香川大学と連携して実施しています。3人とも地元は香川ですが、四国遍路のことは授業で習った程度で、実際に行ったことがありませんでした。この話を聞いた時、教員を目指している3人は「社会の先生は、地域のことも教えていかなければならないので良い経験になるし、自分の勉強にもなる」と思い、四国遍路に詳しい県職員の講義を聞き、フィールドワークで一宮寺をはじめ、国分寺や白峯寺、屋島寺などを歩きました。一宮寺から屋島寺までの遍路道を歩いて「途中まででしたが、想像以上に険しくてしんどかったですね」と谷本さん。四国遍路の厳しさを感じていました。

お遍路体験

四国遍路の勉強をしていくうちに、武川さんは明るい面と暗い面があることを知り、児童にどこまで伝えればいいかと悩んだそうです。メンバーと話し合い、「興味を持ってもらうために自分たちが面白いと思うことを伝えよう」と決めました。

授業は、児童に四国遍路の歴史や文化について解説する座学のグループと、一宮寺の境内でウォークラリーをするグループに分かれて実施。座学では四国全体で大きな巡礼地を作っていることや、若い人からお年寄りまで、性別や国籍は関係なくいろいろな人がお遍路をしていることを説明しました。担当の石尾さんは、児童に少しでも興味を持ってもらえるように、自主製作の映像を作りました。「私たちが今まで行った寺で撮影した映像を格好良く編集したものを見せながら説明しました」と、話します。

ウォークラリーでは本堂や納経所のほか、「地獄の釜」と言われる高さ1mほどの祠（ほこら）の前で、クイズを交えながら御朱印や納め札について説明しました。「クイズを出すと、子どもたちは積極的に参加してくれました」と武川さん。谷本さんはもう1人のメンバーと中務茂平の道標の前で、茂平の格好に扮して説明しました。児童に興味を持ってもらうために工夫したことが成功し、手応えを感じていました。

授業を終えて、3人それぞれに感じた部分がありました。小学校教員を目指している武川さんは「説明だけだと子どもは集中力が続きません。自分が先生になった時はメリハリをつけて、子どもを引き付けられるような授業にしたい」。公務員も視野に入れている谷本さんは、「四国遍路の世界遺産登録へ向けての活動に参加するとともに、自分たちの次の世代、その次の世代へとつなげていきたい」。石尾さんは「県庁の方からいろいろな話を聞き学ぶところが多かったです。子どもに伝える時は、心に残るようにポイントを絞って伝えることが大切だと実感しました」。

今回の活動を通して、四国遍路や寺の魅力を改めて認識すると同時に、子どもたちへの教え方など学ぶことが多かった3人。来年度の活動は新2年生が引き継ぐ予定です。千年の時を超えて地域と共存し、継承されてきた日本の代表的文化遺産である四国遍路に、彼らのような若い人たちが興味や関心を持つことで、また次の世代に受け継がれていきます。世界遺産登録に向けて、香川大学の学生もその一躍を担っています。

―宮寺見学授業　座学

―宮寺見学授業　ウォークラリー

地域と、人と、つながる仕事
まちづくりってかっこいい!

自分が住むまちだから、もっとよくしたい。
そんな熱い思いが、有吉さんの原動力です。

OB Message

高松市健康福祉局こども家庭課　有吉昂佑さん（法学部出身2016年卒業）

大学時代の友情は今も健在
いつか仕事でも連携したい

旧友と笑い合ったひとときが、仕事の刺激になったり、
大学で学んだ法律のことを、実務を通じて見つめ直したり。
あの頃と今がゆるやかにつながる瞬間が、確かにあります。

出身は愛媛県です。公務員とか裁判所とか、公的で広く誰かの役に立つ仕事に興味があったので、進学の際に四国唯一の国立法学部がある香川大学を選びました。車がないと生活が不便な内子町の山で育った私の目に、「自転車でどこへでも行ける」という高松の暮らしは新鮮でした。かといって関西圏ほど人が多過ぎず、言わば「程よい都会感」が高松の魅力かな。

大学時代の専門は行政法。産業廃棄物不法投棄が問題となった豊島事件をテーマに島の人に話を聞きに行ったり、徳島県上勝町のお年寄りを中心とする葉っぱビジネスについて農協に聞き取りをしたりと、フィールドワークに奔走しました。大学の外で色々な話を聞き、地域と深くつながった経験は、地域が抱える問題について考えるきっかけにもなったと思います。

法学部の授業の一つに、民間企業の社員や公務員が講師として教壇に立つコースがありました。ある日、講師を務めた高松市役所の職員から「コンパクトエコシティ」構想を聞いたことが、その後の道を決定付けることに。公共交通機関で生活空間をつなげていく社会は生活しやすそうだし、自分が住む街を自分の手で良くしていきたい、もっと携わりたい、まちづくりってかっこいい!というあの時の思いが今の原点です。

県庁職員も考えましたが、県域全体が対象エリアなのは少し広すぎるなと思って、高松市役所へ。現在4年目、こども家庭課でひとり親を対象とする児童扶養手当を担当しています。実務を通じて、大学で学んだ法律や条例などに基づく仕事をしているのだと実感する瞬間は感慨深いですね。法律を基礎から学べたことは、公務員としても糧になったと感じています。

悩みを抱え困っている人たちの窓口対応をしていると、福祉の仕事というのは時にハードだなと思うこともあります。でも、上司に相談しながら、市民の皆様に納得していただける対応ができた時の達成感は大きい。1年目は何もわからず、2年目でやっと全体像が見えてきて、3年目には担当業務の中でキャリアが一番長くなり、「頼りにされている」という責任感が芽生えたように思います。

公務員には異動がつきものなので、人事異動でメンバーが入れ替わるたびに刺激を受けて、私自身の考え方も変わってきた4年間でした。実践を通じて失敗しながら少しずつ成長していくのは、社会人として大事なステップですね。そろそろ異動の時期ですし、いろんな業務を経験して、いつかはまちづくりに深く携われるチャンスが来たらうれしい。

大学の時は文武両道を目指して、勉強も部活も頑張っていました。当時の仲間たちとは今もつながっています。ゼミのメンバーとは年1回、先生も交えた日帰り旅行なども楽しんで…。ほとんどが公務員の道を選んでいて、たまに行う会合は互いに刺激し合い相談できる場です。近隣県に勤めている人が多いので、仕事で連携できれば面白い展開が生まれるかもしれません。

そうそう、妻は法学部の同期で、つい10日ほど前に長女が生まれたんですよ。出産に立ち会えて感動しました。人事課主催のパパ研修にも参加しましたし、忙しい部署の男性でも積極的に長期の育休をとる風土があるので、私も1カ月くらい育休をもらって一緒に子育てを頑張るつもりです。

香川大学は10月1日、新体制でスタートしました。

副学長
（学生支援・特命担当）
山神　眞一

理事・副学長
（財務・施設担当）
川池　秀文

理事・副学長
（総務・労務担当）
真鍋　光輝

理事・副学長
（企画・評価・広報担当）
舟橋　徹

理事・副学長
（研究・産官学連携・教員評価担当）
片岡　郁雄

理事・副学長
（教育担当）
今井田　克己

学長
筧　善行

副学長
（情報・危機管理・学術・特命担当）
吉田　秀典

副学長
（研究・IR・特命担当）
松木　則夫

副学長
（産官学連携・特命担当）
城下　悦夫

副学長
（国際戦略・グローバル環境整備担当）
德田　雅明

副学長（医療担当）・
医学部附属病院長
田宮　隆

監事
今井　良行

監事
（非常勤）
安井　順子

地域マネジメント研究科長
原　真志

農学部長
深井　誠一

創造工学部長
末永　慶寛

医学部長
上田　夏生

経済学部長
佐藤　忍

法学部長
三野　靖

教育学部長
野﨑　武司

特集 02

病院長×看護部長対談
― 医療のこれから ―
キャッチコピーは「ささえる、つながる、リードする」。

special talk

香川大学医学部附属病院 病院長
田宮 隆 × 冨山 清江
看護部長

田宮 隆　Tamiya Takashi
香川大学医学部附属病院 病院長
（2019年10月就任）
岡山県出身。
岡山大学医学部卒（1981）。博士（医学）
専門は脳神経外科学。2019年より香川大学副学長（医療担当）併任。

冨山 清江　Tomiyama Kiyoe
香川大学医学部附属病院 看護部長
（2019年4月就任）
香川県出身。
香川県立看護専門学校臨床看護学科卒（1983）。同年、就職し現在に至る。2008年大学通信教育修了。認定看護管理者。

良質・安全な医療の提供をするために地域とのつながりは不可欠

当院は県下唯一の大学病院・特定機能病院として、県民に最新かつ良質な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、地域を支えます。

正面玄関

病院再開発を終えて

田宮　昭和58年に香川医科大学医学部附属病院が開院してから約30年が経過し、設備もかなり老朽化していました。平成23年度から再開発がスタートし、平成26年に新しく南病棟が完成。その後、もともとあった東病棟、西病棟の改修工事に入る関係で、その年の6月に病院機能を南病棟に移しました。私が副病院長の時でしたが、患者さんも含めた移転を1日で終わらせなければならないため、あらかじめシミュレーションを行い、分担を決めて一斉に実施しました。あの時は大変でしたね。

冨山　私は看護師長の時代から再開発委員会に所属しており、副看護部長に就任した年に南病棟がオープンしました。南病棟への移転は、280床の大移転でした。診療科の再編成で患者さんの行き先がそれぞれ異なり、全ての運用が初めてだったので、あらゆる調整にかなりの時間を費やしました。

田宮　新築した南病棟は当院の最新鋭の設備が整っています。1階の救命救急センターはベッド数が増え、設備も充実しました。ハイブリッド手術室や術中MRI手術室、ロボット手術室など新しい医療技術が行われる手術室が12室あり、ICU（集中治療室）、GCU（新生児治療回復室）を整備しました。高難度や新規医療技術を用いて手術をすることで、より安全な手術が可能になりました。

冨山　建物の構造が変わったことで動線が変わりました。また、診療科の再編成により、三つの新しい診療科ができたことで、看護体制も再編成をしなければならなくなり、人も仕組みも一から作り上げるのは大変でした。

田宮　今までは内科系統、外科系統といった診療科別の病棟でしたが、新病棟は呼吸器内科と呼吸器外科というように臓器別の編成になり、病棟の組み合わせが変わりました。医師は組み合わせが違っても同じ診療科で変わりませんが、看護師は今までとは異なる診療科の患者さんも診ないといけないので、大変だったと思います。

冨山　再開発に伴う規模拡大に応じた体制整備で、150人の看護師を増員しました。今は人材育成が課題ですね。

チーム医療

冨山　チーム医療が特に強化されたのは平成26年です。医療介護総合確保推進法が施行され、「治す医療」から「支える医療」へ変わってきました。医師や看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、薬剤師など多職種のプロ集団で構成するチームで早期に治療し、住み慣れた場所で暮らしながら支えていく流れになっています。

田宮　昔は医師のみが指示を出していましたが、今は患者さんの情報を全員が知り、それぞれの立場で指示を出します。その流れが医療から介護に変わっても続くという考えが一般的になっています。

冨山　「地域につなぐ」ということで、平成30年度から当院の看護師も地域の訪問看護師に同行し、退院前後訪問などを行っています。また、看護師には特定行為研修という制度があります。修了者は医師が行う行為の一部を、適正な臨床推論の基、自らの判断で、「医師の手順書」に基づき行うことができ、診療の補助ができるようになりました。

田宮　看護師が行う特定行為は、医師のサポートとチーム医療の二つの側面があり、その意味では医師と役割がオーバーラップしています。

冨山　また、特定の看護分野について半年間学んだ認定看護師や修士課程に進んだ専門看護師など、エキスパート、スペシャリストがいます。当院は専門看護師が3人、認定看護師が27人、特定行為研修修了者3人です。今後も増やしていきたいです。

田宮　特定行為研修については、令和2年度から当院でも受けられるよう特定行為研修指定機関として、国に申請しているところです。

冨山　今までは研修費や生活費も含め、相当の負担をかけつつ研修を受けていましたが、当院で研修できると看護師も楽になります。

県下唯一の特定機能病院としての役割

冨山　患者さんの視点に立った良質・安全な医療を展開することだと思います。ただ、人の尊厳を守りつつ、高度な医療を安全に展開していくには教育が大切だなと身に染みています。先進医療と特定機能病院ならではの医療安全体制のもとに、安心して医療ができる人づくりと、院内外問わずつながるネットワークを構築していきたいと考えています。それが地域包括ケアにもつながると思います。

田宮　当院は三つの先進医療がありますが、さらに増やして充実させていきたいと考えています。近年の臨床研究は、多施設共同研究が増えています。臨床研究支援センターを中心にさまざまな機関と連携して、研究を進めていきたいと思います。また、医学部を中心に、病院も国際交流で中国やタイ、ブルネイなど様々な国の医師や看護師など多職種の方が研修に来ており、世界の医療機関ともつながっています。

「治す医療」から「支える医療」へ求められる高度な人材の育成

人の尊厳を守りつつ、高度な医療を安全に展開していくために、高度な看護実践能力を備えた人材を育成していきます。

多職種カンファレンス

中島 一浩 Nakajima Kazuhiro
香川大学医学部 事務部長
愛媛県出身。
香川医科大学採用(1983)。
信州大学医学部附属病院 副病院長、東京医科歯科大学医学部附属病院 事務部長等を経て、2019年より現職。

つなげる × つながる
interview 2

香川の医療体制を確立し地域医療のモデルケースに

良質で安全な医療の提供、人材育成、安定した病院経営をベースに、地域とより連携して、共存共栄していくことがこれからの大学病院に求められています。

少子高齢化が進む中、各都道府県では地域における医療体制の構築が課題になっています。地域医療構想の下、限られた財源を有効活用し、患者それぞれの状態にふさわしい良質な医療を効果的効率的に提供すると同時に、退院後の生活を支える在宅医療や介護サービスを充実させていくことが求められています。

地域医療はこのまま進んでいくと、今までの病院数は残らないでしょう。地域の医療体制を維持していくためには、医療機関が役割を分担していく必要があると思います。香川大学医学部附属病院は、特定機能病院として各地域の医療機関と連携して、香川の医療体制を確立していければと思います。

大学病院は医学部として医療人を輩出する役割を担っています。若い医師が都市部に流れ、医師の偏在化も問題になっています。県と連携して、地域枠を設けて卒業後も地元に定着してもらう取り組みを進めていますが、同時に魅力ある地域づくりも重要です。住みよい街であれば、人は自然と集まり、医療が必要となります。地域を活性化することが医療の充実につながると思います。

がん診療やエイズ治療、肝疾患診療、認知症診療など、地域の拠点病院としての機能強化も図っています。高度な先進医療を県内の医療機関に届けるために、医師をはじめ看護師や技師を受け入れ、研修を行うなど地域に根差した大学病院を目指しています。

良質で安全な医療を提供し、優秀な医療人を育成していくためには、病院の安定した経営も重要です。最新鋭の機械や設備の導入も独自で行わなければならず、大学病院の経営自体も昔と比べて大きく変わりました。

私はさまざまな大学病院で仕事をしてきましたが、時代とともに大学病院の役割は変化し、今まで以上に地域との連携が求められています。良質で安全な医療の提供、人材育成、安定した病院経営のバランスをとりながら、県内唯一の大学病院として、県内の医療機関とともに発展していきたいと考えています。

スタッフステーション

ハイブリッド手術室

今後も、県下唯一の特定機能病院として、地域の医療機関との連携を図り、良質で安全な医療の提供、高い能力と人間性を兼ね備えた医療人の育成、先進医療の開発につながる研究を実践して行きたいと思います。

地域包括ケアシステム

田宮 当院を含む高松医療圏は、香川県立中央病院、高松赤十字病院、高松市立みんなの病院など急性期病院が比較的多いですが、回復リハビリ型や療養型の病院が少ないのが現状です。

国の統計上は、香川県は医師過剰県になっていますが、東かがわ市では医師の減少率より人口減少が激しいため、数字には表れません。また、若い医師が都市部に出ていく傾向が強く、地方では医師の高齢化も進んでいます。

冨山 看護師も同じで、当院の全職員の平均年齢は34．3歳で、当院がオープンした36年前に比べて平均年齢も多少上がっており、看護師の定年退職も増えています。

女性の場合、ライフワークイベントに応じて、結婚とともに退職したり、夫の転勤などで引っ越したりと、育成してもなかなか定着しないのが現状です。

田宮 こうした指数と現状のミスマッチを変えていくためには、県を中心に県内の医療機関が連携し、地域医療を考えなければなりません。今後は、機能を分化して、地域で高度急性期、急性期、回復期、療養型あるいは施設という流れを適切な病院数で運営していくことが重要です。

人生100年時代に突入し、地域包括ケアシステムは医療だけではなく、社会などとの連携が必要です。最先端医療の提供、救急医療の対応とともに、回復期や在宅医療との連携、健康に関するさまざまな疾病の情報を一般の方々に啓蒙することは、高度急性期の機能を持った当院の使命です。

「イキイキさぬき健康塾」などの市民公開講座も定期的に開催し、病気にならないための予防策や症状が出た時の対応を伝えていくことも、地域包括ケアシステムの一つだと考えています。

冨山 県と連携しての小児生活習慣病予防検診システムや、さぬき市民病院の産婦人科医の不足に対して、当院で出産して早期にさぬき市民病院に移って助産師が産後ケアをする「セミオープンシステム」を構築していますね。

田宮 将来的には5G時代を向かえ、さまざまな画像がリアルタイムで見られるようになります。遠隔医療が進み、当院の専門医との連携がより速くできると思います。特に小豆島などの魅力ある島々をより活性化させるためにも、医療の充実は欠かせない要素です。これからも地域との連携を密に取り組んでまいります。

connect partner

患者さまのために、地域のために、
そして職員のために存在する病院

社会福祉法人恩賜財団 済生会支部
香川県済生会病院
所在地:〒761-8076 香川県高松市多肥上町 1331-1
TEL:087-868-1551
https://www.saiseikai-kagawa.jp

高度急性期医療、先進医療を推進します。

2020年4月
新棟(本館北タワー)稼働

高松赤十字病院
〒760-0017 高松市番町4丁目1-3
TEL.087-831-7101(代表)
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

RICOH
リコージャパン株式会社 香川支社

香川大学校友会 入会のご案内

創立70周年を機に
「香川大学校友会」を設立しました。

この度、創立70周年を契機として、学部・研究科の枠にとらわれない全学の同窓会的組織として「香川大学校友会」を設立しました。その構成員は卒業生・修了生のみならず、在学生、現職教職員、退職教職員までを含めたものであり、香川大学に関わる全ての方が一丸となって香川大学を支援し、連携を図る組織となります。
今後は、香川大学のより一層の発展を目指して、香川大学校友会として力強い支援・協力を行っていきたいと考えております。
ついては、香川大学の全卒業生・修了生、在学生、現職教職員、退職教職員、また、趣旨にご賛同いただける全ての方々へ、香川大学校友会設立へのご理解と熱いご支援をお願いいたします。

香川大学校友会会長
香川大学長
筧 善行

香川大学校友会の主な事業内容

予定される事業内容であり、実際の事業は各年度の予算等を踏まえて実施されます。

① 学生生活・活動等支援 ② 課外活動支援 ③ 海外留学等支援 ④ 緊急支援奨学金
⑤ メンタルサポート ⑥ 就職活動支援 ⑦ 大学環境整備支援 ⑧ 会報発行
⑨ ホームカミングデー開催 ⑩ ホームページ作成 ⑪ 会員情報管理

香川大学校友会 TEL:087-832-1985
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1香川大学校友会事務局
9:00~17:00(土・日・祝は除く)
FAX:087-832-1053
E-mail:koyukai@ao.kagawa-u.ac.jp
https://www.kagawa-u.ac.jp/koyukai
香川大学校友会 検索

香川県厚生農業協同組合連合会
屋島総合病院
病院長 安藤健夫
高松市屋島西町 2105 番 17
TEL : 087-841-9141
FAX : 087-841-7392
http://yashima-hp.com

香川県厚生農業協同組合連合会
滝宮総合病院
病院長 井上秀幸
綾歌郡綾川町滝宮 486 番地
TEL : 087-876-1145
FAX : 087-876-1302
http://takinomiya-hp.com

当院は患者様がかかりたい
かかってよかったといえる医療を目指しています

救急病院 KKR高松病院
TEL.(087)861-3261(代)
高松市天神前4-18 http://www.kkr-ta-hp.gr.jp/ 高松病院 検索

©池田理代子プロダクション

四国電力グループの格安スマホ
FiiMO
月額1,100円!(3GB)
10分かけ放題付き
※音声&データ通信タイプ(3GB)表示金額はキャンペーン価格です。キャンペーン終了後は、月額2,450円。

お申込み
Fiimoショップ 高松丸亀町店
Fiimoショップ イオンモール高松店
Fiimoショップ イオンモール綾川店
Fiimoショップ イオンタウン宇多津店
詳しくは Fiimo 検索 www.fiimo.jp
Fiimoホームページでもお申込みいただけます!
お問合せ先 TEL.0800-777-2110
9:00~19:00 通話料無料
STNet

香川発 夢の糖 希少糖
"無限の可能性"を秘めた夢の糖

希少糖とは?
その名のとおり希少な糖。自然界にごくわずかしか存在しない糖ですが、種類は多く約50種類も存在することがわかっています。

希少糖のはたらき
香川大学が、世界で初めてすべての希少糖の生産方法を確立。産学官連携事業によるさまざまな研究が行われ、食後血糖上昇抑制作用、脂肪蓄積抑制作用、抗酸化作用など数々の作用が報告されてきました。食品だけでなく医療・健康分野、植物分野に至るまで、現在も多様な研究が進められています。

希少糖

11月10日(いいとう)は 希少糖の日

一般社団法人 希少糖普及協会
香川県高松市番町1-2-19 安西ビル4階
TEL(087)814-3333 FAX(087)802-1755
http://www.raresugar.org

希少糖「D-プシコース(アルロース)」の期待される作用
1. 食後血糖の上昇をゆるやかに
2. 内臓脂肪の蓄積を抑える
3. 動脈硬化になりにくい
4. 虫歯になりにくい
5. アンチエイジング効果

※プシコースは海外ではアルロースと呼ばれています。